

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第 23 回 湿原再生小委員会

資 料

令和 3 年 1 月 21 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

# 釧路湿原自然再生協議会

## － 第 23 回 湿原再生小委員会 －

日時：令和 3 年 1 月 21 日（木） 13:30～15:30

場所：釧路市観光国際交流センター 1 階 ホール A

### ----- 議 事 次 第 -----

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

- 1) 幌呂地区湿原再生事業の状況報告と実施内容について

(国土交通省北海道開発局釧路開発建設部)

- 2) 達古武湖自然再生事業の状況報告と実施内容について

(環境省 釧路自然環境事務所)

- 3) 広里地区自然再生事業の報告について (環境省 釧路自然環境事務所)

#### 3. 閉 会

### ----- 配 付 資 料 -----

- ・ 第 23 回湿原再生小委員会 資料 ----- (資料 1)
- ・ 出席者名簿 ----- (資料 2)
- ・ 座席表 ----- (資料 3)
- ・ 説明資料(1/3) 幌呂地区湿原再生について ----- (資料 4)
- ・ 説明資料(2/3) 達古武湖自然再生について ----- (資料 5)
- ・ 説明資料(3/3) 広里地区自然再生について ----- (資料 6)
- ・ 第 22 回湿原再生小委員会 ニュースレター

--釧路湿原自然再生協議会 湿原再生小委員会 委員名簿--

計：58名

■個人(30名)

(敬称略、五十音順)

No	氏 名	所 属
1	石岡 透	
2	伊藤 毅	上智大学
3	植村 滋	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
4	加藤 ゆき恵	釧路市立博物館
5	金子 正美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
6	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
7	神田 房行	北方環境研究所所長 (元北海道教育大学副学長)
8	木村 勲	
9	黒田 寛※	
10	櫻井 一隆	
11	清水 信彦	
12	新庄 興	
13	新庄 久志	
14	杉澤 和之※	
15	杉澤 拓男	
16	竹中 康進	
17	照井 滋晴	特定非営利活動法人環境把握推進ネットワーク-PEG
18	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
19	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
20	野本 和宏	釧路市立博物館
21	針生 勤	元釧路市立博物館学芸員
22	平間 清	(有)平間ファーム
23	松本 文雄	
24	三上 英敏	道総研 環境科学研究センター 情報・水環境グループ
25	矢部 和夫	札幌市立大学 教授
26	山田 浩之	北海道大学大学院農学研究院 講師
27	吉中 厚裕	酪農学園大学 准教授
28	吉野 邦彦	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
29	若菜 勇	釧路国際ウェットランドセンター 阿寒湖沼群・マリモ研究室
30	渡辺 剛弘	上智大学

※印 第10期(前期:R2.11~R4.11.)新規登録

■団体(19名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
3	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
4	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
5	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
6	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
7	公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
8	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
9	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所水環境保全チーム	上席研究員 巖倉 啓子
10	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
11	総合設備株式会社※	代表取締役 亀岡 孝
12	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
13	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
14	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一
15	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
16	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
17	北海道標茶高等学校	校長 三上 拓志
18	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
19	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

※印 第10期(前期: R2.11~R4.11)新規登録

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 千葉 孝一
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆
3	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(6機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 石川 伸
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 田邊 仁
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	釧路町	町長 小松 茂
5	標茶町	町長 佐藤 吉彦
6	鶴居村	村長 大石 正行

湿原再生小委員会の検討経過 (1)

	議事
第 1 回 H16. 2. 17	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全体構想と小委員会との関わりについて</li> <li>2) これまでの調査・検討経緯について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 広里地区湿原再生について</li> <li>(2) 幌呂川地区湿原再生について</li> <li>(3) 雪裡樋門湛水試験について</li> </ol> </li> <li>3) 今後の調査・検討方針について</li> </ol>
第 2 回 H16. 6. 25	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成 15 年度の調査・検討成果について</li> <li>2) 平成 16 年度以降の調査・検討方針について</li> <li>3) 全体構想との関わりについて</li> </ol>
第 3 回 H17. 5. 11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小委員長選出について</li> <li>2) H16 年度調査検討結果と H17 年度調査検討計画について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 釧路湿原の面積について</li> <li>(2) 釧路湿原全域動植物調査の概要</li> <li>(3) 広里地区</li> <li>(4) 幌呂川地区</li> <li>(5) 関連する農業整備事業について</li> <li>(6) 雪裡樋門地区</li> </ol> </li> </ol>
第 4 回 H20. 3. 3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区の変遷と現状</li> <li>2) 幌呂地区で生じた現象と課題</li> <li>3) 幌呂地区の湿原再生目標の設定</li> <li>4) 広里地区の湿原再生</li> </ol>
第 5 回 H21. 3. 18	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区の湿原再生目標の概要</li> <li>2) 幌呂地区 平成 20 年度の調査結果</li> <li>3) 平成 21 年度の予定</li> </ol>
第 6 回 H22. 9. 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区湿原再生について</li> <li>2) 広里地区湿原再生について</li> <li>3) 釧路湿原の面積について</li> <li>4) 5 年目の施策の点検について</li> </ol>
第 7 回 H23. 1. 19	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区現地植生回復試験について</li> <li>2) 幌呂地区湿原再生について</li> <li>3) 5 年目の施策の振り返りについて</li> </ol>
第 8 回 H23. 4. 27	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区現地植生回復試験について</li> <li>2) 幌呂地区湿原再生のリファレンスサイトについて</li> </ol>
第 9 回 H23. 10. 20	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区湿原再生（基本方針）について</li> <li>2) 幌呂地区湿原再生（実施方針）について</li> <li>3) モニタリング計画について</li> <li>4) 広里地区自然再生について（旧農地区域の湿原への再生、ハンノキ林の取扱いの検討）</li> <li>5) 釧路湿原の面積について</li> </ol>
第 10 回 H24. 1. 18	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幌呂地区湿原再生実施計画（案）について</li> <li>2) 達古武湖における自然再生の取り組みについて</li> <li>3) 釧路湿原の面積について</li> </ol>

湿原再生小委員会の検討経過（2）

	議事
第 11 回 H24. 11. 8	1) 幌呂地区湿原再生における今年度の実施予定等について 2) 達古武湖自然再生事業実施計画（案）について 3) 広里地区湿原再生事業実施計画の策定について
第 12 回 H25. 1. 24	1) 幌呂地区湿原再生における未利用排水路の埋め戻しについて 2) 達古武湖自然再生事業実施計画（案）について 3) 広里地区自然再生における今年度調査実施状況について
第 13 回 H25. 12. 2	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査等と南部湿地対策工事の概要について
第 14 回 H26. 1. 28	1) 広里地区湿原再生について
第 15 回 H26. 12. 24	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査実施状況等について 3) 広里地区自然再生における今年度事業内容について
第 16 回 H27. 12. 18	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査実施状況等について
第 17 回 H28. 11. 29	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査実施状況等について
第 18 回 H29. 3. 10	1) 第 23 回釧路湿原自然再生協議会の概要について 2) 平成 28 年度幌呂地区自然再生工事の土砂置場について
第 19 回 H29. 12. 12	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査実施状況等について 3) 広里地区湿原再生における実施内容の報告等について
第 20 回 H30. 6. 15	1) 達古武湖自然再生における達古武地域の事業振り返り及び実施計画（追記）について 2) 広里地区湿原再生における平成 30 年度広里地区自然再生事業について 3) 幌呂地区湿原再生事業について
第 21 回 H30. 12. 4	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査実施状況等について 3) 広里地区湿原再生における実施内容の報告等について
第 22 回 R2. 1. 17	1) 幌呂地区湿原再生における事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について 2) 達古武湖自然再生における今年度調査実施状況等について 3) 広里地区湿原再生における実施内容の報告等について
第 23 回 R3. 1. 21	1) 幌呂地区湿原再生事業の状況報告と実施内容について 2) 達古武湖自然再生事業の状況報告と実施内容について 3) 広里地区湿原再生事業の報告について

第 22 回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針

項目	発言概要（課題）	回答及び今後の対応方針
幌呂地区自然再生について	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生調査結果について、地盤切り下げ前のデータがあると施工前後の比較ができて良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切り下げ前の植生調査結果も含めて、今回報告する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のクサヨシ群落に外来種のカナリークサヨシが混ざっているという指摘があった。違いを明確にしておく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クサヨシとカナリークサヨシは外部形態から同定可能であるが、現在のところ幌呂地区では確認されていない。</li> </ul>
達古武湖自然再生について	<ul style="list-style-type: none"> <li>窒素やリンについて、流出口に近い ST-1 で値が高いが、釧路川からの逆流ではないのか。逆流の有無は別にしても、結果として流出口のほうで値が高いことについて説明してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流出口に流速計を設置していて、逆流は把握できている。過去に逆流による負荷を調査し、あまり影響は大きくないと判断したが、再来年度に改めて調査する計画である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土分やシルト分の割合が、流入口よりも湖央に近いほうで大きくなっている。流出口のほうでさらに大きい可能性があるが、やはり釧路川からの逆流が影響しているのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の調査は、埋土種子の結果と合わせて、鉛直方向の分布状況と底質の状況を突き合わせることで、優先順位の高い地点を絞り込むためのものである。湖全体の状況という意味では、昨年度に地形の調査を行っていて、10年前に比べて浅くなっている場所があるということは把握している。</li> </ul>